

すぎなみコミュニティカレッジ

講座：『もっと知りたい身近な図書館』

Vol. 4 「本の返却処理・書架整理の体験」

2003年3月20日（木） 10：00～12：00 於：杉並区立中央図

書館

1．本の返却について実習

返却処理の手順は、

・『その他』 ... 当日戻ってきた本を、返却スキャンし、戻り本の棚にまとめる。

一人5冊ずつ、分類に従い書架に戻す。

これをくり返し、書架に本を納める。

分類項目の中にキチンと収まっているのかを点検・整理

・『保存庫へ収納する本』 ... 上記と同じ手順で収納する

・『他の図書館の本』 ... 返却作業

・『予約のある本』 ... 予約本のケースに収納、配本の準備へ

2．書架整理の実習

Vol. 5 「小学校の図書館の現状について」

2003年3月27日（木） 10：00～12：00 於：杉並区立中央図

書館

1．馬橋小学校 千田てるみ教諭による講話

学校図書室が、こうあって欲しいという事例をご紹介します。

都内の小学校で実際にあったことですが、この小学校では、司書が常駐しております。ある子どもが「ずっこけ先生シリーズ」に凝って、夢中になって読んでいる。どうしてそんなに夢中になるのかという原因ですが、司書の方が、その子どもに、「全部読んだのは、君が一番だよ」とささやいたそうです。また、絵本から、字の本に上手く移行出来たのも、「こんな本どうですか？」と薦めたことが契機になっているとのこと。このように、子どもと司書の方との交流があるということが大切だと思いませんか。

別の事例ですが、メールアドレスにmoribito...としている私の友人の先生からのメールです。これは、上橋菜穂子さんの『守人シリーズ』から取っています。ハリーポッターより面白い本と言われているのですが、「神の守人はおもしろいよ。3年生にも守人シリーズを薦めています。倉橋耀子とあさのあつこさんの本も薦めています」とありました。こんな先生に習えば、子どもはきっと本が好きになるに違いがありません。

この先生のいる学校図書室の風景をご紹介します。

はやみね かおる・・・そして5人がいなくなった 人形は笑わない

中川りえこ・・・ぐりとぐらの大掃除、ぐりとぐらの海水浴

など、子どもが読みたいなと思わせるように本、表紙を展示されているものを、紹介する（図書室の隣の準備室で展示）。また、子どもが薦める本も、自分達が掲示しています。

「待ってました名探偵、王様占い大当たり、にんたまらんたろう」など、子どもが、本に関わりを持って楽しく読書に入っていくように工夫をしている、先生のこまやかな心遣いが感じられる事例をご紹介します。

お手元の資料にある学校ではボランティアの方が大きな役割を負っていますが、毎週火曜日の一年生に対する読書の授業で、読み聞かせをしています。読みたい本が見つからない子どもを気軽に呼び寄せて、本を読む。これ以外にも、図書室を綺麗に飾る、本の掲示板を作る、書架の整理などを行っています。さらに、1学年200冊まで、各図書館で、学校向けの団体貸し出しがあるので、3年生以上のクラスでは、お母さん方が、選本のお手伝いを、先生に頼まれてボランティアをしています。学校の図書費の予算が厳しい、先生が多忙を極めることなどから、大変な戦力になっています。

次に、杉並区の学校図書の現状を話してみたいと思います、済美養護学校を入れると45校ありますが、これらの学校に、「読み聞かせ会」がボランティアで行われているかどうか、調査するアンケートを出しました。回答を得たのは、28校でしたが、その内25校で親御さんが行う読み聞かせ会が催されています。「絵本の会」、「三つのりんごの会」、「おはなし宅急便」などのボランティア毎の活動があります。また、本の修理・整理は28校中、5校で実施。選本は4校となっていますが、10校程度はあるのではないかと考えます。

他のアンケート調査で分った統計ですが、小学校の生徒さん一人当たりの図書購入費は、2,258円から457円までで、予算額は、1校当たり82万円から18万円（昨比15万円増）までとなっております。また、蔵書数は一人当たり52.5冊から7.8冊までという結果でした。このように学校毎に大変な差が有ることが分かりました。

杉並区の学校では司書さんは常駐していませんので、担任の先生が本を購入したり、図書室を整備したりしていますが、どうしても自分のクラスを重点的にみますから、他のクラスまで本に関する事柄は目が行き届きません。全国では、学校に司書教諭が専任でいたり、司書が図書室に常駐していたりして、優れた学校図書館の活動を行っているところがたくさんあります。東京近郊の千葉県浦安市や市川市でも素晴らしい活動が行われていますので、機会がありましたら、ぜひ学んでください。また、杉並のまわりの中野・世田谷・三鷹・西東京でも、各地域で差はありますが、様々な形で学校に司書を置いていたり、

置くようになりました。これからまた、楽しい学校図書館の話が伝わってくる
ことと思います。

杉並の学校の現状はもっと本が欲しい、司書が欲しい、先生に余裕が欲しい
というところです。総合学習の時間に、手を抜けないという現況で、子どもの
思いを纏めて、その思いを外の方々に連絡して、総合学習の授業に仕立てる。
先生にも、企画力、実行力、パワーなどが要求されます。せめて、学校図書室
の整理・整頓・選本・読み聞かせ、図書委員会に関わって頂くなどを、ボラン
ティアさんの協力も得て、上手くことが運ばないかと願うわけです。

では、先生方がこのようなボランティアを受け入れるような状況にあるのか
という、なかなか厳しいものがあるのですが、先ずボランティアの申し出に
関しては、校長先生・教頭先生とも、ほぼ受け入れる体制が出来ていると思
います。ただ、授業時間数の制限があり、国語・算数・理科などに対して一定の
授業時間を費やす必要がありますので、低学年の読み聞かせ時間の確保は、と
ろろと思えば大丈夫と思いますが、高学年の余裕時間の確保が難しい。このよ
うな現状があることをご理解頂けたらと思います。

先生の状況ですが、先生は疲れて、ヒーヒー言っています。ボランティアの
話が、校長・教頭先生からあつたら、「エー、知らない人が入ってくるの！」
という反応だと思います。ですから、先生に、「地域のおばさんだけど、こん
な事をしたいのだけど」といって近づいてください。先生が、疑いの目で見て
いたら、「先生！こんなこと出来るのだけど、先生より上手く読み聞かせ出来
るのだけど、聞いて！」と言ってやってみてください。大体の先生は、受け入
れて頂ける様に思いますが、一寸心配な面もあると考えます。読み聞かせのボ
ランティアは、それぞれ、皆さんの流儀があり、それで結構なのですが、あく
までも子どもが見やすいように、聴きやすいように工夫してやってくだされば
と思います。

先生の感性についても説明しておきましょう。先生は忙しい、だけど子ども
のためには何かしてあげたいと強い思いがある。ですから、良いものには即感
激して、「素晴らしい」「有難う」と言う言葉が出てきます。ですから、是非
皆さんには、先生からこのような言葉を引き出して頂きたいと願っています。
学校には、子どもがいて、その中には本をジット聞けない、走りまわる子もい
ます、どうかそのような子どもの存在そのものを認めて頂きたい。また、その
ような状況を口が裂けても外に言って頂きたくない。外に向かって言うと、学
校とボランティアとの信頼関係がなくなってしまうわけで、このようなことは
絶対に避けて頂きたいと考えます。子どもが読んだ記録も学校にはありますの
で、この図書カードも、秘密扱いで対応して頂きたいので付け加えさせて頂き
ました。

2. 参加者が、四グループに分かれて、図書館職員と意見交換会を開く
Aグループ ... 児童サービスについて

- Bグループ ... 障害者サービスについて
- Cグループ ... 資料整理サービスについて
- Dグループ ... レファレンスサービスについて

参加者アンケート 集計結果

* 参加者36名 / 回答数21

1. 講座を知った方法 (*複数回答 1含む)

- ・区報・・・・・・・・・・14
- ・チラシ・・・・・・・・・・1
- ・知人からの紹介・・5
- ・その他・・・・・・・・・・0
- ・無回答・・・・・・・・・・1

2. 実技編の感想及び全般にわたっての意見・感想

わかりやすかった(はい:19 / いいえ:0 / どちらでもない:1 / 無回答:1)

期待した内容だった(はい:13 / いいえ:3 / どちらでもない:2 / 無回答:3)

新たな知識・情報を得た(はい:18 / いいえ:1 / 無回答:3)

その他の感想

- ・書架整理、レファレンスなど全く知らなかったの、図書館のあり方の一部がわかったような気がする。
- ・小学生の子どもがいるので、学校図書館の講座が興味深かった。図書館の充実はもちろん、小学校図書館への期待が大となった。
- ・ボランティアについては、意識して受講しなかったの、わからない。
- ・よく知っているつもりだった図書館を再認識した。
- ・講座の企画運営も良く、年1回でも第2次・第3次と続いていくとよいと思った。
- ・図書館司書のお話が示唆に富み、ありがたかった。
- ・市川の図書館のことを初めて知り、今度訪れてみようと思っている。
- ・いつも利用している図書館の裏側の情報を知ることができて楽しく学べた。
- ・多くの人力がないと運用できない事実がよりわかった。
- ・講義を受けてからボランティアをしたいと思った。できれば読み聞かせがしたい。
- ・図書館の現状を知るとともに、普段見ることのできない書庫等の裏側を見せていただき、楽しかった。
- ・押樋さんによる市川の図書館ボランティアについての講演では、地域の方々のボランティアに対する意欲・積極性に感動した。少しでも多くの人に本の楽しみを知ってもらうために、施設・図書館員・地域の人たちが一体となって努

力していくことが必要なことがわかった。今は利用者だが、いずれボランティアとしてかかわりたいと思う。

- ・区内の図書館情報、講師の話による運営に関すること、図書館資料の豊富・膨大な内容とその整理保存の方法等、これまで知りえなかったいくつかの事柄を、講座を通じて体得できた。

- ・簡単な説明だったようで、もっと濃い内容が望まれる。

- ・最後のグループディスカッションで、やっと講座の主旨が理解できた。

- ・子どもたちが本と親しむのに、学校の図書室は身近な場所だと思うが、講座に参加してさらにそう思うようになった。そのために私がどのようなことから始めたらいいのか、少しわかってきた。本の修理もすぐに役立てたい。

- ・小学校の先生が学校図書館についての希望を話してくれて、先生方の願いがよくわかった。学校ボランティアに対する熱意に温度差があって、募集するのが難しいようだけれど、一人でもやってみようと考えている保護者がいたら、後押ししてくれるよう、学校側をお願いしたい。

- ・近年、図書館は主に小説を借りて読むだけの場所になっており、もう少し高度な使い方をめざしたいと思った。また、市川図書館の押樋さんのお話はとても参考になり、是非杉並でもそのような主旨の会ができたらと思った。

- ・リファレンスを受講したが、他の活動にも参加してみたかった。

- ・とても面白かった。

3. 講座の参加した動機・理由、参加して気付いたこと等

【動機・理由】

- ・子どもが小さい時から絵本に触れていたもので、子どもと共に絵本の楽しさを感じていて、図書館にはそういうところで身近にあるものだった。これからよりよく図書館を利用するためにも、私の知らない部分を勉強しようと参加した。

- ・図書館活動とボランティアとのかかわり方を知りたいと思い参加した。

- ・知人から誘われ、近くに住んでいることもあり参加。そういえば、図書館というものの基本的なことは知らなかった、という単純な動機。

- ・子どもたちに読書の大切さを味わってもらいたいと思っている。小学校の図書室がもっと充実するために、何か手伝えることはないかという思いがあり、勉強のために参加した。また、私自身も図書館が大好きなので、図書館で何かお仕事が手伝えたらなという思いもある。

- ・図書館が好きでいつも活用しており、よく知りたいから。

- ・図書館で働きたいと思った。

- ・幼稚園・小学校の教員免許を持っており、子育てが一段落したら、学童保育や幼稚園等教育関係の仕事をしたいと考えていて、そのときに役立てることができればと思い参加した。

- ・読書を趣味にしている日常から、より幅広く、より新鮮な知識を得るのには、身近にある図書館の有効利用が最も適した方法と思い、図書館のことを

もっと知ることができたら望ましいと考えた。

・活字離れが言われて久しいが、いつ、どこで、どう変わっていくのか、関心のある方々とお話するきっかけを得たいと思った。

・図書館の実情が知りたかった。

・図書館側が何を目的にしたかったのか、知りたかった。

・小学校の図書室を学童の溜まり場にしたいなあと思っていた。学校の図書室、区内の図書館の現状を知りたかった。

・図書館の内容と、ボランティアがどうかかわるかを知りたかった。

・今までは子どもが小さかったため、図書館より児童館の本を借りることが多かったが、あまりにも古すぎて、手に取ってみる気になれないものが多く、それでも子どもたちは読書を楽しんでいる姿を見ると、何とかならないものかと思う。

・小学校の図書室をもっと子どもたちが利用できるようになったらと考えていて、図書の整理を手伝っている。もっと知識を得たいと思い参加した。

・子どもの学校や他校で読み聞かせをしていたが、図書館と小学校をつなぐお手伝いができたらと思って参加した。

・読書が好きで、学生時代にも図書館でお世話をするサークルにいたりして、図書館に愛着を持っていたため。

・司書教諭の資格を通信教育で取得中で、参考になるかと思ったので。

・図書館を知りたかった。

・2回しか参加できなかつたので、全体の流れはわからないが、ボランティア養成講座の初歩の初歩だったということは理解できた。図書館に興味・関心のある方々の集まりで、それはそれで良いと思うが、ちょっと中途半端な気がした。

4 . 今後希望するテーマ・期待すること等

【図書館にかかわって】

・子どもたちのために親がどんな本を選べばよいか、子どもの本に対する講座 / 選本のための本の評価 (2 名)

・図書館と学校の図書活動の連携 / 学校図書館の活性化と地域の図書館のつながり (3 名)

・高井戸図書館と中学生 (気軽に行ける図書館、眺めのよい、気分を落ち着かせる図書館)

・区内図書館の特徴をまとめ展示する。

・図書館でも朗読教室を開いてほしい (目の見えない人のためのテープ等にふきこめるようになるような朗読を勉強したい) 。

・調べたいことに対するアドバイザー (相談員) の対応

・適切な検索が可能になるようなIT、デジタル、インタラクティブに即応するような対応

・図書館を利用する人の、あるいは利用しない人の考え方を知りたい。

- ・ 図書館の業務が手伝える講座
 - ・ 杉並区独自の司書（補）の養成講座
 - ・ 「おはなし会」等を受けてみたい。
 - ・ 図書、図書館についての知識について。特に学校図書に関心がある。
 - ・ 今回の図書館の講座のアドバンスコース（分科別）及びフォローアップ講習等
 - ・ ボランティアとNPOの関係
 - ・ 図書館ボランティアのすばらしい実践を聞いてみたい
 - ・ 保健所のBook Startに興味がある。
- 【それ以外の希望】
- ・ 図書館で、実務的な講座ではなく、もっと文化面の内容のある講座をやってほしい。
 - ・ 美術鑑賞が好きなので、絵画の鑑賞の仕方のような講座をお願いしたい。

* アンケートにご回答いただいた参加者の中で、今後の地域での活動意向をお持ちの方 15名